



ゆずりがはもり

津島中のあゆみ

<校訓> 友愛・清廉・飛躍

文責：第17代校長 ○○ ○○

号外も第3弾となりました。今回は『津島中のあゆみ』として、「校訓・校章そして校歌」を紹介します。

校訓

初代・山本英作校長先生が津島地域の実態も考慮しながら、次の3つの校訓を設定されました。



教室に掲示されている「校訓」は旧校舎の物を使っています。

友愛

津島中生徒は、小学校12校2分校の山村、農村、漁村、町など様々な地域から集まり、見ず知らずの生徒たちの出会いから始まります。教育の原点は「愛」であり「心」です。

生徒間の友情と望ましい連帯感によって豊かな人間性が培われます。これらの精神や本校周辺に毎年飛来し、群れ飛ぶ白さぎの姿から「友愛」が生まれました。

清廉

津島町の西部はリアス海岸の青い海、東部は緑の自然に囲まれた美しい町です。その中で生徒たちが純真で清廉な人間に育つことを願い、また当町に自生している県指定の天然記念物「さぎ草」や白さぎの純白で清潔な姿にちなんで「清廉」が生まれました。

飛躍

津島町の発展は「人づくり」からという町民の願いで統合中学校が生まれました。この願いは、教育の発展、「飛躍」があつてこそ達成されるものです。また校舎近くに飛来し、大空高く飛び交う白さぎの姿からも「飛躍」が生まれました。

校章の制定に当たって、未統合の学校も含めた全生徒及び全教職員からアイデアを募集しました。その結果、当時岩松校舎勤務の加洲史朗先生の作品が選ばれました。(本校養護教諭 加洲由花留先生のお義父様です。)

学校付近に毎年訪れる「白さぎ」と、その形によく似た県指定天然記念物である「さぎ草」からのイメージを図案化し、三角にとがった形を10にすることによって、10校の中学校統合を示したそうです。

霊鳥「白さぎ」が翼を広げた形は、津島中学校の飛躍的發展と明日への希望を秘めています。

校章



(さぎ草) 御槇の源池公園に自生



(校章) 男子の学生帽に着用

校歌

昭和43年に内山直先生（宇和島市立天神小学校長）が作った歌詞に、昭和44年に清家嘉寿恵先生（愛媛大学教育学部助教授）が曲をつけて完成しました。

【校歌に出てくる津島の山々】

讓が葉森



津島町の東部に位置する標高1,016mの山です。これは、相生橋から撮った写真です。

天が森



岩松と清満・増穂地区の間にある標高334mの山です。これはJA津島支所の前からの写真です。戦国時代には、越智氏の居城「天が森城」があったそうです。

青垣山

私は、昔から青垣山ってどこだろうと疑問に思っていました。調べてみると、実は、青垣山というのは、「青々とした山が周囲を取り巻いているさまを青い垣に見立てていう土地褒めの語」で、どこかの特定の山を指す言葉ではないそうです。

校歌が斉唱から混声三部合唱に

平成2年に本校卒業生の田村仁先生（現和霊小学校）が赴任されました。当時の津島中は、校歌斉唱の声が全然出なかったのが、逆転の発想で、「合唱にすれば声が出るようになるかもしれない」と思ったそうです。そこで、国立音楽大学の後輩の鈴木一真さんに編曲を依頼し、混声三部合唱「津島中学校校歌」が完成しました。私が赴任した平成5年頃から歌い始めたそうです。これが、今の「津島中学校の歌声」の原点となりました。

御意見、御感想や、津島中学校についての過去の情報などを知っている方がいらっしゃいましたら、下記のアドレスまで御連絡ください。
（「ゆずりがはもり」担当 ○○ ○○）

一、讓が葉森
黒潮薫る
たゆとう波に
友愛の旗
ああ津島の郷に
朝明けて
宇和の海
白玉の
手にかざし
吾等は集う

二、松風冴ゆる
栄枯を映す
流れをのぼる
清廉の気を
ああ津島の郷に
天が森
岩松川
白魚の
胸に秘め
吾等は学ぶ

三、青垣山の
川遠白く
雲に羽ばたく
飛躍の翼
ああ津島の郷に
永遠に
海青し
白鷺の
背に負いて
吾等は励む

